

技術は人間社会に便益をもたらすことは当然であるが、問題をもたらしてきたことも事実で、さらに問題を解決したのも技術であった。一八二五年にイングランドのストックトンとダーリントンの区間に世界で最初の旅客鉄道が開通して以後、鉄道路線は急速に拡大し、その一本がロンドン市内のパディントンから郊外のスラウまで敷設された鉄道である。

一八四五年、スラウで殺人をした犯人が鉄道でロンドンへ逃亡した。当時の社会に鉄道より高速の手段はなく、犯人は高飛びできたと安心していたが、終着のパディントンに到着したところ警官が待機しており逮捕され、死刑となった。その直前に鉄道より高速の電信が開通しており、犯人の逃亡を警察に伝達していたからである。

これは人間の開発した技術の大半に該当する法則で、新規に開発された技術が社会にもたらす問題は、より新規の技術によって解決されてきた。しかし次第に解決困難な問題も登場してきた。化石燃料の大量消費によって気温上昇や海面上昇が進行しているが、現状では解決できる確実な技術を人間は手中にしない。

そのような憂慮をもたらす最近の技術が生成AIである。今年「キャッツアイ・ダズル」と名付けられた草花の精細な写真が公開された。本物のペルシャネコの顔面と錯覚するほど可憐な草花で、多数の人々が種子を購入しようと代金を支払ったが到着しなかった。それは当然で、写真は生成AIが作成した画像だからである。

この実害は軽微であるが、看過できない被害も発生している。二〇二二年九月に日本列島に襲来した台風一五号による人的被害は一桁であったが、台風が直撃した地域の浸水被害の上空からの映像がネットワークで拡散され騒動となった。しかし映像は生成AIが作成したもので、かなり注意しなければ見破れない画像であった。

実害も発生している。今年二月に香港の企業の会計担当役員が出席したビデオ会議で財務担当の上司から数十億円の送金するように指令された。会議に出席していた同僚も面識のある人物ばかりであったので送金したところ、完全な詐欺であった。財務担当の上司も会議に出席した役員も生成AIで作成された画像であった。

アメリカのコンサルタント企業は生成AIを利用した詐欺の被害は二〇一七年には二〇億ドル程度であったが、現在では一五〇億ドル、五年後には年間四〇〇億ドルになると予測している。この金額が多大かどうかは状況次第であるが、生成AIが浸透してくる社会では被害が増加していくことは確実である。

W・ディズニー製作のアニメーション映画『ファンタジア』は八曲の名曲の内容をアニメーションで表現した名作であるが、その一曲が「魔法使いの弟子」で、未熟な弟子が師匠から命令された水槽に注水する作業を箒に魔法をかけて代行させるが、解除する方法を習得していなかったため水浸しになるという内容である。

この場合は師匠が魔法を解除して解決したが、最新の技術は発明した人間が予期しなかった能力を発揮し、それを無効にする手段は用意されていない場合が多数である。天文学的な規模の情報を駆使できる生成AIは人間とは桁違いの能力を発揮するが、これから重要な仕事は鉄道での高飛びを阻止した電信のように、生成AIを抑止する技術の開発かもしれない。